

山中湖畔の餌場に来る野鳥の数はやはり例年の十分の一です。日本野鳥の会に再度問い合わせましたところ、森にじゅうぶんな餌があるからでしょうとのことです。はたして野鳥の絶対数が減ったのが、それとも餌場に来る数が減ったのかはわかりませんが、もう少し長い目で観察してみることになります。

皆さんの地域での、野鳥の到来についての変化も、ぜひお知らせください。

野鳥の数に反比例してか、とんぐり、くるみ等の木の実は、例年の数倍あります。来年のリスやカケスは、さぞ忙しいだろうと、勝手に想像、同情しています。

さて、十一月の探偵団は、ガラリー・オムさんでの鳥の羽根のフロッチ(ペンダント)造りの企画でしたが、西日でも晴天に恵まれ、おだやかな芸術(?)の秋の日を堪能しました。

参加団員の感想

秋晴れの十一月五日、待ちに待ったワイルド・アートの鳥の羽根フロッチ造りに参加させていただきました。わたしにとっては、久しぶりの探偵団参加です。

午前九時に「あみん」に集合、ワイルド・アートの世界第一人者の木村修団長より、鳥の生態、骨格などを、自身の描かれた素描のノートを軸に、ていねいにおしえていただきました。

恐竜が進化したものが鳥、つるこが進化したものが羽根などと、興味深いお話をうかがいながら、いよいよ鳥の羽根造りに、期待が増します。

全員、木村団長の素敵なアトリエに移動し、素晴らしいお手本を前に、作業開始です。わたしは、ヒレンジャクの羽根を造ることに決めて、バルサ材に、紙やすりをかけ始めました。アトリエ内は静まり返り、BGMだけが耳にひびきます。模型飛行機材料であるバルサ材は、軽い反面もろく、なかなか神経をつかいますが、午前中に削りを終了して、午後はペイントにかりました。

ペイントは、アクリル絵の具を使いますが、アトリエのあちこちから「むずかしい」の音が聞こえてきます。肩に力が入り、細いラインがうまく引けません。そんなわたしたちに、団長は「いいですね」と、はげましてくださり、もうひと頑張りしましたが、グラデーションがむずかしいのです。しばらくして、奥さまおもてなしのコーヒータイムに、一息つくことができました。

最後に、修正していただいて、一本一本の羽根に、命が吹き入れられました。さらにコーディネートされると、見事な羽

根が出来上がり、参加者全員、大満足。あまりの楽しさに、わたしは翌週の木曜コースにも参加させていただき、カケスの羽根を造りました。

ヒレンジャクの羽根のフロッチは、母への一足早いクリスマス・プレゼントにしました。コートの衿にきらきら輝くフロッチをつけた、自慢げな母の顔が目につかひます。

ワイルド・アートはけっしてお絵描きではなく、自然の生態をしっかりと学んだ上にはじめられるものだということを学びました。

木村修団長、参加者のみなさま、ありがとうございました。(T・E)

平成十八年の活動予定

- ・一月十九日(木)・二十一日(土)
- ・二月十六日(木)・十八日(土)
- ・三月十六日(木)・十八日(土)
- ・四月二〇日(木)・二十二日(土)
- ・五月十八日(木)・二〇(土)
- ・六月八日(木)・十日(土)
- ・七月十三日(木)・十五日(土)

団員更新の案内

平成十八年度の団員登録の更新をお願いします。一世帯千円です。主に通信代(切手代)に使います。

更新申込は、電話、ファックス、メールなどで結構ですので、一月三日まで、に必ずお願いいたします。

冬の運動不足解消を!

冬はどうしても運動不足になりがちです。探偵団では、富士山麓のパラエターに富んだコースを味わっていたために、この冬も、ぜひ足腰をきたえておいてください。

お知らせも、ぜひ仲間ごと!

探偵団活動は、六年目となります。富士山麓でもエコツアーがブーム化しているなかで、探偵団的アプローチは大切な試みだと考えています。

一人でも多くの方にこの趣旨を理解いただき、富士山麓のファンが増えますよう願っています。是非、お知り合いにも参加の声をかけてみてください。

十一月の探偵団活動案内

§ 戸高雅史さんと森の世界へ §
日時：十一月十日(土)・十五日(木)
朝9時から3時ごろまで

- ・担当団長：戸高雅史さん
- ・持物：雨具、お弁当、双眼鏡、防寒着
- ・寝転べる位の敷物、手持ちの楽器
- ・参加費：二、三〇〇円

・申込締切：それぞれ二日前までに、「あみん」にお願いたします。

発行：山麓探偵団事務局

電話：〇五五五・六五・七〇三三

編集人：樋口裕峯